２０１０．６．１
日本ドッジボール協会競技委員会

実技統一事項

１　実技（シャドーイング）について

① オフィシャルタイムアウト（主審・副審）

② アウト・オブ・バーンズ

③ ファール（動作のないもの）

④ アウト、支配権の指示、タイムイン、オーバーライン、ダブルパス、ダブルタッチ

①について、主審・副審の動作は視界を塞がないよう目線よりやや下で動作を行うこと。

②について、線審等の確認後に笛・動作ではなく、ボールデッドであることを示すため先に笛・動作、続けて線審等の確認を行うこと。

③について、動作のないものは該当プレイヤーを指してコールすること。

該当プレイヤーを指す動作は「アウト」と同様とする。

例：該当プレイヤー指し、「赤３番アウトプレイ」

④について、ルールブック・テキストブックに記載のとおり。

２　ジャンプボール及びやり直しの手順

①　セットアップ（主審，副審は，円陣等をさせずに，静かに座らせる）

②　主審，副審は，チームの内外野の人数を数え，確認する

「赤内野人数○人，外野人数○人，白内野人数○人，外野人数○人」

③　主審はセンターサークル中央で「ジャンプボール」とコールするとともに動作をし，ジャンパーをセンターサークルにくるように指示する

④　副審からボールを受け取りセンターサークル内で線審１・２・３・４，副審，オフィシャルの順で，６回笛を吹くと同時に，ジェスチャーで試合が開始できることを確認する。主審の笛の合図と同時に，線　審１・２・３・４は旗，副審，オフィシャルは，手を挙げて主審に準備の完了したことを知らせる。

（線審，副審に対する確認ジェスチャーは，肩の高さで腕を伸ばし，掌も床面に垂直に伸ばす。オフィシャル席に合図するときは，肩の高さよりもやや高い位置に挙げる）

⑤　主審・副審はジャンパーのゼッケン，足元を確かめ（センターラインを踏ませないように），アイコンタクトで確認する

⑥　手からボールが離れると同時に笛を吹き，試合開始

⑦「ピーッ，タイム」

⑧「ジャンプボールをやり直します」と宣言　　副審はボールを確保する

⑨　タイマーを戻したことを確認し，副審からボールを受け取る

⑩　主審・副審はジャンパーのゼッケン，足元を確かめ（センターラインを踏ませないように），アイコンタクトで確認する

⑪　ジャンプボールで試合開始

３　ヘッドアタック時の手順

①　主審は，「ピーッ，タイム（必ずコールする）」「センターラインから離れて座って」（センターライン近くに選手がいない場合）「その場に座りましょう」と言いながらコートに入る。副審は，ボールを確保する。

②　選手のところへ走って行き，確認する

線審は，コートに入り，選手を座らせてからセンターサークルを意識する

③ 監督を呼んでから，必要があれば副審に線審を呼んで協議をするように依頼する

線審はその場から走って集合する，協議のない場合は，自分のポジションに戻る

④ 安全確認が終わり，監督がコート外へ出るまで作戦の伝達及び指示がないように見守る

⑤　センターサークルに行き，協議。決定権は，主審。

（協議が終了すれば，線審は，自分のポジションに戻る）

⑥　センターサークル後方で説明

・　ヘッドアタック時の説明（例）

ただいまのオフィシャルタイムアウトについて説明します。 赤〇番ヘッドアタック。白内野ボール。

・　ボールが顔付近に当たった場合の説明（例）

ただいまのオフィシャルタイムアウトについて説明します。 赤内野からのアタック，白〇番アウト。　　ボールは〇番。

⑦　センターライン延長線上に戻り，タイムイン